

戸田康之さん『たき火』(3月21日配信)

こんにちは！戸田です。よろしく。
今日のお話は、たき火についてです。

今、私はろう学校の幼稚部に勤務しています。

私が働いているのは埼玉県のろう学校の幼稚部ですが、11月から2月、3月くらいまでの間の寒いこの時期、毎日たき火をやっています。石で丸く囲った中に木の枝を入れて燃やすんです。毎日です。ろう学校の中でたき火をやるなんて、全国どこのろう学校の幼稚部を見てもありません。うちの学校だけです。

たき火は危ないと思うかもしれませんが、そんなことはありません。子どもたちはたき火が大好きで、火のまわりに集まっては木や葉っぱを火に入れて、どう燃えるかな？と様子を見ているのが好きなんです。ためしに葉っぱを入れてみて、杉の葉を入れたら燃えた！とか、石は燃えないんだ！とか、氷を入れてみたら解けた！とか、火の中にいろいろなものを入れてみて、これは燃える、燃えない、というようなことが学んでいます。

そして火は暖かいですね。寒い日でも水を使って遊ぶこともありますが、水でかじかんだ手をたき火まで行って温めています。そしてまた遊びに行く。たき火場は子どもたちが好きに出入りできる場所にもなっています。

ただ温まるだけじゃなく、料理もできるんです。庭に畑があって、ダイコンなどの野菜を収穫し、切って鍋に入れてたき火にかけ、味噌を溶かして煮立てれば味噌汁が作れますし、鍋に牛乳とココアを入れて温めればホットココアが作れます。このように、たき火を使った料理も毎日経験できるんです。

たき火を通じて子どもたちが学べることがたくさんあります。しかし今はコロナウイルスの流行で料理ができず、暖をとるだけになっています。コロナが終息したら、また料理をしていろいろ作りたいです。